対馬市と影島区、対馬市と尉州郡との交流に関する研究報告

孔　義　植

はじめに

対馬と釜山との最短距離は四九・五km（対馬と福岡との距離：一三八km）にすぎず、『魏志倭人伝』にも記載されているように、古代から頻繁な交流が行われていた。対馬は日本にとっては大陸との文化的・経済的交流の窓口の役割を果たしてきた。

現在も対馬はこうした地理的条件を活かし、一九八三年には釜山広域市影島区と姉妹縁組結縁を締結し、二〇〇五年には尉山広域市尉州郡と文化交流協力に関する意向書を交換して様々形で交流を行っている。

現在、対馬を訪れている観光客は二〇万人を上回っているが、その中の九五％を韓国からの観光客が占めている。過疎化や経済の不振に悩む対馬市は、韓国から多くの観光客を誘致して地域経済の活路を見出そうとしている。

以下では対馬市と釜山広域市影島区、尉山広域市尉州郡との交流に対する調査研究の結果を踏まえ、自治団体間の

交流の実態や問題点、課題などを中心に報告をまとめる。

1．朝鮮半島と対馬との交流の歴史

(1) 古代から一九一〇年まで

対馬では紀元前の朝鮮系土器が発見されるなど、朝鮮半島と紀元前からの交流が確認されている。縄文時代から朝鮮半島・九州本土と交流・交易が行われていたことは『魏志倭人伝』にも記されていて、一二世紀に編纂された朝鮮最古の歴史書『三国史記』には西暦四〇八年に倭人が新羅を襲撃するため対馬島内に軍営を設置していたとの記録がある。六六三年、大和政権は百済を支援するため兵力を送るときに対馬を通して出兵していて、対馬は朝鮮半島出兵の中継地として使われた。八世紀には遣新羅使船が停泊した記録がある。このようなことから対馬は大陸との政治的、文化的、経済的交流の窓口の役割を果たしてきたことが分かる。

一四世紀の半ばから始まった日本国内の政治の混乱は、対馬の経済に大きなダメージを与え、困窮した対馬の貿易商や漁民の一部が海賊化し朝鮮や中国の沿岸を略奪することが多くなった。いわゆる倭寇の出現である。倭寇に悩まされた高麗は一三六六年に対馬島主に倭寇の取締を要請するなど倭寇の活動をきっかけに高麗と対馬の公式的な交流が始まったのである。

一三九二年に成立した朝鮮王朝は、倭寇活動を抑制する目的で一四〇七年に対馬との公式貿易を認め、貿易港として富山浦（釜山市）、薺浦（乃而浦：馬山市）を指定して、日本人の居留地として倭館を設置した。さらに、朝鮮の首都漢城（ソウル）には日本の大名や商人を接待する首都倭館の東平館が設置されたが、しばらくして閉鎖された。当時、

朝鮮王朝は倭寇の活動に悩み、対馬は朝鮮貿易が生命線であった。こうした事情が朝鮮と対馬の交流を活発化した。

対馬との貿易量が増加し、倭館に居住する日本人が増えると、朝鮮王朝は一四一八年に既存の二ヶ所の倭館に加え塩浦倭館（蔚山市）と加背梁倭館（慶尚南道）を設置した。ところが、一四一九年、朝鮮の海岸を略奪した倭寇が対馬島主宗貞盛の黙認下で行われたと見た朝鮮王朝はすべての倭館を閉鎖し、対馬征伐を行った。その後、朝鮮王朝は対馬の倭館再開の要請を受け入れ、一四二三年に富山浦、薺浦、塩浦倭館を再開し、一四四三年には宗家に朝鮮貿易の独占的な地位を認めるなど宥和政策を続けた。一五一〇年、三浦で起きた日本人居留民の暴動事件（三浦倭乱）が起き、朝鮮王朝は再び倭館を閉鎖して日本人に対する規制を厳しくするとともに一五一四年には倭館を薺浦、富山浦に制限した。その後、一五四四年に起きた蛇梁鎮倭変（倭寇が蛇梁鎮、現在の統営市を略奪した事件）をきっかけに薺浦を閉鎖して富山浦倭館に併合する処置を取った。

一五九二年の豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄慶長の役、韓国では壬辰・丁酉倭乱）は、対馬と朝鮮関係を大きく変えた。日本の朝鮮出兵により倭館が閉鎖され、国交が断絶したのである。一六〇七年、朝鮮王朝は捕虜送還のために徳川幕府の国交修復の要請に応じて、日本との国交再開を決断した。この過程で対朝鮮貿易の復活が死活問題であった対馬藩主宗義智は国書を偽造してまで朝鮮王朝と徳川政権の講和に尽力したのである。一六〇七年、朝鮮王朝は第一回朝鮮通信使（回答兼刷還使）を派遣すると同時に釜山に新設された豆毛浦（釜山）倭館に朝鮮交易の独占権を与えた。その後、朝鮮王朝では一八一一年まで合計一二回の朝鮮通信使を派遣した。

長く日本と朝鮮王朝の外交や貿易などを担当していた草梁倭館は明治維新により発足した新政府により一八七三年に日本外務省に接収され、一八七六年の日朝江華島条約締結により居留地に変更された後、閉鎖された。

(2) 一九六五年から現在

戦後、長らく公式の交流がなかった対馬と韓国は、一九八三年に上対馬町の呼びかけによって成立した釜山広域市影島区との姉妹縁組みが締結されたことにより新しい時代を迎えた。一九八五年には対馬厳原港まつりに「対馬アリラン際」の記述が追加され、釜山など韓国から多くの人々がこの祭りに参加することになり、対馬と韓国の交流は盛んに行われることになった。一九八六年には対馬六町（厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町）と釜山広域市影島区との姉妹縁組が締結され、交流の輪が拡大された。一九九一年からは対馬と影島区の友好交流事業の一環として朝鮮通信使行列の再現パレードが厳原港まつりの行事として取り入れられた。一九九四年には対馬六町と影島区との間に「行政交流に関する協定」が締結され、行政交流ゼミナールが対馬と影島区で相互に開催されることになり、二〇一三年には一七回目の行政ゼミナールが対馬市で開催された。一九九六年には「チング音楽祭」が、一九九七年には「国際マラソンＩＮ対馬」が友好交流事業に追加され、一九九九年七月の厳原～釜山間の高速船就航（シーフラワー号：不定期、二〇〇〇年に国際定期高速船となる）を境に韓国からの旅行者が大幅に増加した。二〇〇一年には比田勝～釜山間の就航も決まった。

ワールドカップサッカーが日韓共催で開催された二〇〇二年は「日韓国民交流年」と位置づけられ、対馬市内においても「対馬コリアマンス」や「JAPAN-KOREA 市民交流フェスティバル二〇〇二ＩＮ対馬」など、日韓交流イベントが大々的に行われた。二〇〇三年には、対馬六町の共同出資で「対馬釜山事務所」が開設され、情報発信、情報収集、文化交流や観光事業の推進など、釜山との総合窓口として活躍している（詳細は後述）。

二〇〇五年には、蔚山広域市蔚州郡と「文化交流協力に関する意向書」を交換して韓国との交流の幅を拡大した。同年七月には、対馬六町の合併により誕生した対馬市と影島区が新たに姉妹縁組を締結した。

韓国からの観光客の増大に伴い、空路での対馬訪問が可能になった。つまり二〇〇九年七月からＫＥＡ（Korea Express Air）による韓国・対馬間のプログラムチャーター便の運行が始まったのである。韓国大邱・対馬間を週三便、約四五分で結ぶもので、二〇〇九年一〇月からは、韓国ソウル金浦空港・対馬間に切り替え運行している。さらに、二〇一一年には、ＪＲ九州高速船ビートル号が就航し、未来高速船コピーも投入され、釜山から二時間あまりで来島が可能になり、多くの韓国人観光客が対馬を訪れることになった。

ところが、二〇一三年に起きた仏像盗難事件（後述）で厳原港まつりでの朝鮮通信使行列再現パレードが中止、厳原港まつりから「対馬アリラン際」の記述が削除されるなど関係悪化が憂慮されたが、二〇一四年の厳原港まつりでは再び朝鮮通信使行列再現パレードが再開（台風のため大幅に縮小）され、関係回復の段階に入っている。

2．対馬と釜山の交通便と韓国人観光客数の推移

(1) 対馬と釜山の航路

一九九九年七月一四日から厳原～釜山間で大亜高速海運が高速船シーフラワー号を不定期で運行し、二〇〇〇年四月から定期航路となった。また、二〇〇一年四月からは比田勝～釜山間も運行を始めた。毎週火曜日は運休日となっていたが、二〇一〇年四月より毎日運行している。釜山―比田勝港間の所要時間は一時間二〇～四〇分、釜山―厳原港間は二時間二〇～四〇分である。

ＪＲ九州高速船ビートルは、二〇一一年一〇月一日に「対馬・比田勝～釜山」航路へ新規就航し、対馬から韓国釜山までの七六kmを約一時間一〇分で結び、毎日一～二便を運航している。

(2) 国際空路

二〇〇九年年七月二七日より、ＫＥＡによる韓国・対馬間のプログラムチャーター便の運行が始まった。韓国大邱・対馬間を週三便、約四五分で結ぶもので、使用する航空機はＢ一九〇座席数一九の小型機である。

二〇〇九年一〇月九日からは、韓国ソウル金浦空港・対馬間に切り替え運行となった。

(3) 対馬を訪れる韓国人観光客

二〇一三年一年間に、対馬市を訪れた韓国人観光客は約一八万にのぼり、対馬市の人口約三万三千人の五倍以上が流入している。一九九五年、韓国人の対馬旅行が始まった当時の三〇〇人に比べて実に六〇〇倍も増えたのである。円安も追い風になって二〇一四年には二〇万人まで増加する見込みである。

図１　釜山と対馬を運行するビートル号の航路図

出処：http://www.jrbeetle.co.jp/Internet/tsushima/index.html

多くの韓国人観光客が対馬を訪れる理由としては、釜山から船便で一、二時間しかかからないことから日帰り観光ができるうえ、運賃も安く（釜山―比田勝：七五〇〇円、釜山―厳原港：八五〇〇円）異国の風景を楽しみながら釣りやサイクリング、トレッキング、海水浴などができることが挙げられる。免税店での安いショッピングを狙う観光客に、寿司など本場の日本の味を味わいたい人もいて、年に数回訪れる観光客も多い。

こうした事情からこれからも対馬を訪れる韓国人観光客は増え続けると見込まれている。

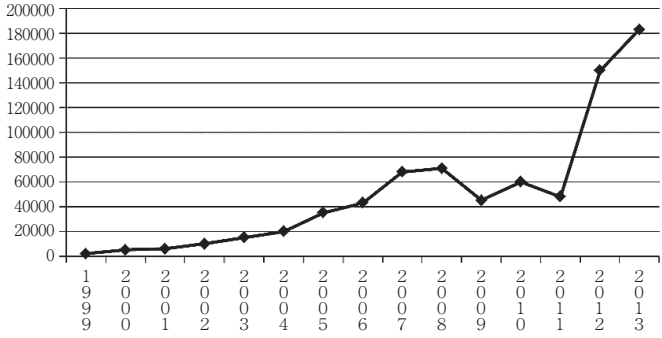
3．自治体交流の実態

(1) 対馬市と釜山広域市影島区、尉山広域市尉州郡の基本データー

表1　基本データー

	人口	面積	予算（一般）
対馬市	三三、一二九人（二〇一四・七）	七〇八・二五㎢	三四四・五億円
影島区	一二三三、六三五人（二〇一四・七）	一四・一㎢	一、七六七億ウォン（約一七六億円）
尉州郡	二一二二、二一九人（二〇一四・七）	七五四・九三㎢	五、六七一億ウォン（約五六七億円）

図2　対馬を訪れる韓国人観光客数の推移



対馬釜山事務所の資料と法務省統計資料を元に筆者作成

(2) 対馬市と影島区との交流形態と実績

交流形態

両自治体は祭りやイベントなどの行事への自治体首長や職員の相互訪問をはじめ、職員の相互交換研修（現在は行っていない）、職員のスポーツ・趣味クラブの交流などの人的交流と、両地域の行政に関するテーマについて事例発表や質疑応答を行う「行政交流セミナー」を行っている。相互訪問するメンバーは主に市長、区庁長、副市長、副区庁長、局長、担当公務員、対馬市国際交流協会の会員などであり、職員の相互交換研修には主に平職員が派遣される。行政ゼミナールには関連部署の局長あるいは課長をはじめ毎回約一五人前後の職員が参加している。

交流実績

人的交流：職員の相互訪問は、市長や区庁長などをはじめ一九八六年以降、延べ一〇〇人以上に達している。職員スポーツ・趣味クラブの交流が三回行われ、一〇〇名（対馬市五〇名、影島区五〇名）が参加した。

行政交流：職員の相互交換研修を行い、合計一二回一二名（対馬市六名、影島区六名、現在は行われていない）が参加した。

行政交流ゼミナールは一七回開催し、五三一人が参加した。行政交流ゼミナールの年度別テーマは以下の通りである。

表2　ゼミナールテーマ別の状況

区分	計	国際交流	経済	観光	保健環境	社会福祉	災難	地方行政
件数	三四	三	六	四	八	七	二	四

資料：影島区提供

表３　年度別ゼミナールテーマ

年　度	影　島　区	対　馬　市	開催地
1995		地方行政に関して	対馬市
1996	地方自治団体の国際化対応方案		影島区
1997	影島区・対馬島との産業・経済交流	影島区・対馬島との産業・経済交流	対馬市
1998	地方自治時代の経営収益事業	地方自治団体振興に関する事業の展開	影島区
1999	低所得住民のための公的扶助研究	低所得層の社会福祉状況	対馬市
2000	影島の海洋観光資源開発方向	新しい日韓交流方案	影島区
2001	顧客満足の奉仕行政の改善方案	行政サービス向上方案	対馬市
2002	21C 影島区保健行政の増進方案	豊玉町保健行政の住民健康診療	影島区
2003	影島区のごみの効率的な管理	対馬島のごみの現状と対策	対馬市
2004	地域住民のための図書館運営	韓国と対馬韓の物的交流	影島区
2006	老人介護制度の導入に関する考察	対馬市の社会福祉行政	影島区
2007	効率的な災難管理方案	対馬市の防災計画	対馬市
2009	自治村実現のための未来世代の育成方案	地域住民の生涯学習に関する事例	影島区
2010	EM を活用した環境にやさしい影島の造成	環境実践モデル都市の実現に向けて	対馬市
2011	海洋環境の改善と漁民の所得増大方案	資源管理型漁業の確立と海洋保存区域設定のための目標	影島区
2012	影島区の地域祭りの活性化方案	対馬市の地域行事	影島区
2013	東三革新都市のビジョンと未来	新病院・観光交流センター建立計画	対馬市

資料：影島区提供

(3) 官民の連携交流

官・産・学の国際交流協定

二〇〇三年七月に、旧上県町、㈱大亞高速海運、釜山外国語大学校の三者で締結した。三者による国際交流の活性化を図り、国際化・地方化時代に添い地域社会の相互発展に寄与することを目的として結ばれた。二〇〇七年一一月に対馬市として再締結し、毎年、釜山外国語大学校学生による海岸漂着ごみ清掃を実施している。

韓日の朝鮮通信使ユネスコ世界記憶遺産共同登録の推進

対馬市と釜山広域市が中心になって江戸時代などに来日した使節団「朝鮮通信使」の関連資料を、日韓共同で国連教育科学文化機関（ユネスコ）の記憶遺産に登録すべく、日韓両国の関係自治体や民間団体が取り組んでいる民官合同作業である。二〇一四年八月二五日、下関豊前田町の海峡メッセ下関国際会議場で長崎県対馬市や滋賀県長浜市、静岡市などの職員と韓国側の研究者ら約三〇人が参加した日韓共同推進会議を開いた。そこで申請対象を江戸時代に行われた一二回の朝鮮通信使に絞り、用語の統一など共同申請に向けた準備を進めている。

朝鮮通信使は朝鮮王朝が日本に送った外交使節団であって、起源は室町時代にまでさかのぼる。江戸時代には四〇〇～五〇〇人規模の通信使が一二回来訪し、豊臣秀吉の朝鮮侵略で悪化した両国関係の修復や交流の役割を担った。

朝鮮通信使関連の文化財には「対馬宗家倭館関係資料」（重要文化財）や「雨森芳洲関係資料」（同）などがある。

朝鮮通信使は一九七八年、対馬が観光客向けの朝鮮通信使行列の再現パレードとして復活してから、「厳原港まつり（対馬アリラン祭）」の形で毎年行われている（二〇一三年は仏像盗難事件により中止、二〇一四年から復活）。

朝鮮通信使の記憶遺産共同登録は当初、日韓両国政府の主導で進めていく計画だったが、歴史問題や領土問題をめぐる関係悪化のため計画が宙に浮いた形となった。これを受け、両国の自治体や民間団体などの関係者が二〇一四年三月、民間機関を設立し申請を進めることで合意した。

日本側は七月、朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会を発足させ、朝鮮通信使ゆかりの一五の自治体をはじめ四〇の民間団体などが加盟する「朝鮮通信使縁地連絡協議会（略称・縁地連、事務局・対馬市）」を設立した。この協議会には江戸時代に朝鮮王朝が江戸へ使節を送った朝鮮通信使ゆかりの全国の一五自治体などが参加し、京都市、長浜市、彦根市、近江八幡市が加盟している。

韓国側は、釜山広域市の支援を受ける「釜山文化財団」が二〇一四年三月、民間機関を設立し、申請を進めていくことになった。釜山文化財団は、朝鮮通信使を「争いの後に平和な時代を開いた平和の象徴であり、誠意と信義を基本とした交流のお手本である」ことを強調し、日韓共同登録に積極的に取り込んでいる。

双方は二〇一六年春の共同申請、一七年の遺産登録をめざしてプロジェクトを推進している。

朝鮮通信使縁地連絡協議会

朝鮮通信使と縁のある自治体・民間団体などが参加して一九九五年に対馬で結成された。対馬市が会長と事務局を担当しており、現在は一七自治体（対馬市、日光市、静岡市、大垣市、長浜市、近江八幡市、彦根市、京都市、神戸市兵庫区、たつの市、瀬戸内市、福山市、呉市、上関町、下関市、新宮町、壱岐市）、三三団体、一〇個人の加入により運営している。年一回持ち回りで全国交流会を開催している。二〇〇三年九月に韓国の「朝鮮通信使文化事業推

進委員会」と「共同推進協定書」を締結した。二〇〇七年には朝鮮通信使四〇〇周年（朝鮮通信使が江戸時代になって初めて訪れた年が一六〇七年）にあたり、対馬市をはじめ、静岡市、下関市、彦根市、呉市、千代田区、瀬戸内市などで記念事業が行われた。

(4) 民間の交流

交流イベント

対馬市と影島区・釜山広域市との間には様々な形の様々なイベントが行われている。

イベントの種類や内容、開始年度などを簡単に整理すれば次のようになる。

①厳原港まつり対馬アリラン祭（八月第一土・日開催）：一九六四年から始まった厳原港まつりは対馬最大の夏祭りで、一九八八年よりサブタイトルに「対馬アリラン祭」を追加して行われている。夏祭りとして定着している「厳原港まつり・対馬アリラン祭」は、商工会青年部が中心となり運営し、島内外を問わず老若男女誰もが楽しめるイベントとして定着しており、毎年三万人を超える見物客を動員している。中でもメーンイベントである朝鮮通信使行列パレードには、国内外からの参加希望者や見物客があふれ日本や韓国メディアからも注目を浴びている。また、この日は、韓国からの国際航路も一日二～三便体制で運行されるなど韓国からの観光客も多数来島している。朝鮮通信使行列以外にも舟グロー、演芸の夕べ、花火大会など、対馬市民誰もが参加し或いは楽しく見学できる祭りで、国内外からも多数の観光客を誘致している。かつての朝鮮通信使が日韓交流の礎であるように、このイベントにより対馬が日韓交流の島として国内外に広く認識され、国内外からの観光客を誘致することにより、交流人口の拡大、地域の活性化を

図っている。

②対馬ちんぐ音楽祭（八月下旬土曜日）：日本と韓国の有名ミュージシャンによる合同音楽祭である。「ちんぐ」とは韓国語で「友達・仲良し」を意味する言葉で、対馬でも方言として使われている。一九九六年から韓国に近いという地理的条件を最大限に生かした、対馬ならではの国際交流イベントとして国内外から多数の参加者、観光客を集めている。

③国境マラソンＩＮ対馬（七月上旬日曜日）：韓国まで四九・五kmの距離にある上対馬町で、日韓のランナー約千人が参加して、マラソンを通じて友好交流を図っている。一九九七年から開催しており、二〇〇一年四月に「慶州さくらマラソン」と姉妹縁組を締結した。国境マラソンＩＮ対馬は、島内の小学生から老人まで、さらに国内はもとより韓国からも多数のランナーが参加し、テレビ・新聞に取り上げられることにより、「日韓交流の島・対馬」をアピールしている。

④日本歌謡大会：在釜山日本国総領事館と社団法人韓日文化交流協会と対馬市の三者共催で開催している。日本の歌を日本語で歌う第一回「日本歌謡大会」を釜山市で開催、以後、毎年開催している。予選・本選があり、銀賞授賞者は、対馬ちんぐ音楽祭にゲストとして出演している。日本文化に興味を持っている韓国人の若者を対象としている。

⑤日韓交流写真美術展：釜山と対馬の芸術家が出展している展示会である。会場は釜山と対馬で交互に開催され、約一五〇点が展示されている。

⑥青少年等国際交流体験事業（上対馬町国際交流協会主催）：日本の食文化や舞踊などの伝統芸能を披露し、日本文化の理解を図っている。

⑦県立対馬高等学校の国際文化交流コース：二〇〇三年、対馬高校は韓国語や韓国の歴史や文化を学ぶ「国際文化交流コース」を開設。第一期生は平成二〇〇六年三月に卒業。うち五人が釜山の釜慶大学校、東亜大学校、釜山外国語大学に進学した。釜山情報観光高等学校と姉妹校縁組（2007）を結んだ。

⑧姉妹校縁組：鶏知中学校と韓国釜山広域市影島区の新仙（シンソン）中学校（一九九四年）、今里中学校と韓国任實郡只沙面にある只沙（チサ）中学校（二〇〇〇年）、浅海中学校と韓国蔚山広域市の熊村（ウンチョン）中学校（二〇〇三年）が結んで、それぞれ学校訪問やホームステイなど、双方の文化や習慣を学んでいる。

⑨民間団体の姉妹縁組締結：つしまライオンズクラブと釜山東洋ラインズクラブ（一九八三年）、対馬ロータリークラブと巨済ロータリークラブ（一九九二年）、つしまハムクラブと釜山ハムクラブ（一九八四年）が姉妹縁組を締結して定期的な交流を行っている。

⑩スポーツ交流：上県町バドミントンクラブと影島区バドミントンクラブ（一九九八年～）、つしまやまねこクラブと釜山大学ＯＢラグビークラブ（二〇〇二年～）、慶州ソフトテニス連合会と対馬ソフトテニス連盟（二〇〇三年～）が交流している。

⑪ホームステイ事業：厳原町は釜慶大学校、上対馬町は釜山韓日文化交流協会とそれぞれ提携し、毎年、学生や社会人を対馬に招きホームステイを実施している。二〇〇八年度からは、ソウルの韓国航空専門学校のホームステイ・日本文化体験事業も受け入れている。（二〇名程度）

釜山韓日文化交流協会

この協会は、民間レベルでの韓日両国間の人的・文化的交流を通じた相互理解と友好協力を目的に一九八七年に設立された。この協会は、釜山地域を中心に日本各団体との各種文化交流事業及び教育事業など相互理解プログラムを活発に行っている。具体的な事業としては、対馬市と釜山広域市での学生のホームステイの斡旋、文化体験行事の企画、日韓関連の遺跡の探訪、日韓共同フォーラムやシンポジウムの開催、日本語講座の開設、釜山圏域の日本語能力試験（ＪＬＰＴ）の実施などが挙げられる。

一九九四年から始まった大学生の上対馬ホームステイプログラムには延べ二七六人の韓国人大学生が参加した。二〇〇四年からはホームステイをしながら「国境マラソンＩＮ対馬」にてランナーのための行事進行や通訳などのボランティア活動を兼ねている。さらに、同年から始まった上対馬と釜山広域市の中高生の相互ホームステイプログラムには二八四人が参加した。二〇〇一年からは上対馬高校生の韓国ホームステイが始まり、二〇一四年八月まで七七人が参加した。その他、韓日子供シンポジウム開催、釜山-対馬中学生交流、日本語弁論大会共同主催、日本歌謡大会などを行い、対馬と釜山地域の青少年交流や文化交流に力を入れている。

一方、こうした民間団体の日韓交流のための努力にもかかわらず最近の日韓関係の悪化や中国の台頭に伴う日本の相対的な国力の低下の影響を受け、韓国での日本語学習者の数が急激に減っていることが今回の調査で分かった。この協会の事務局長の話によると日本語能力試験の受験者が毎年約一〇％ずつ減少してＪＬＰＴ受験者数が最盛期の六万人から二万人に減ったという。中小都市では日本語学習の基盤が崩壊しつつあって、日本語学校の閉鎖、専門学校での日本語学科廃止、高校での第二外国語としての機能消失などが進んでいるという。大学では日本語や日本関連学

科の学科名を国際学科とか東北アジア学科などに変更していく。それに伴い日本語関連の出版社も打撃を受け、日本に留学生を送っている留学院なども閉鎖を余儀なくされているという。かつて日本政府は日本語教育のため教材やネイティヴスピーカーを送るなどの支援をしていたが、今は途絶えている。一方、中国は教材やネイティヴスピーカーを提供し、中国語学習を支援しているという。

国際交流のためには語学能力が不可欠である。国際交流の基盤たる語学、とりわけ日韓交流に欠かせない日本語学習者の激減はこれからの日韓交流に陰りを落としかねないと思われる。

4．交流に対する自治体の対応と思惑

(1) 対馬市

対馬市は、過疎化が進む中、停滞しつつある対馬市の経済や産業の活性化につなげたいということから影島区を始め釜山広域市との交流を積極的に推し進めている。

韓国からの観光客誘致のため朝鮮通信使など、韓国に関わる遺跡や記念物を整備する一方、対馬の水産物や林産物の韓国への輸出を試みている。二〇一四年釜山ベクスコにて開かれた「釜山国際水産ＥＸＰＯ」では初めて個別ブースを設けて参加し、対馬の水産物の韓国販売に努め（韓国の通営市では対馬のぬたうなぎを輸入している）、ヒノキや杉の木など林産物を利用した韓国進出を試みて、ソウル近郊にあるパンギョにヒノキのモデルハウスを展示している。

対馬市の観光物産推進本部という部署では国際交流員制度を設け、韓国や中国との交流の活性化、市の国際化を推進している。

国際交流員制度

この制度は、市内の学校、企業及び各種団体等が実施する国際交流・国際理解促進事業等への国際交流員の派遣協力に係る必要な事項を定め、対馬市の国際化推進に資することを目的として運営されている。

国際交流員の派遣対象事業は、①外国の文化及び生活の紹介のための講演等　②異文化理解のための交流活動への協力　③簡易な外国語日常会話指導　④その他、対馬市の国際化推進に資する業務である。

現在、対馬市には三名の国際交流員（韓国人二名、中国人一名）が勤務し、二名の韓国人は、本庁観光物産推進本部に一名、上対馬事務所に一名配置している。二名の内一名は、国が薦める国際交流員の受入事業「ＪＥＴプログラム」により派遣されている。

国際交流員は、市の国際交流関係事務の補助（文書等の翻訳、国際交流事業の協力、韓国訪問客の接遇、イベントでの通訳、市民対象の韓国語講座）も行っている。

さらに、対馬市は二〇〇三年から釜山広域市に対馬釜山事務所を設置し、現地での対馬の観光ＰＲと日韓交流の拠点としている。二〇〇二年九月、対馬六自治体の合意形成をまとめる対馬総町村組合により、財団法人対馬国際交流協会を設立し、二〇〇三年四月に釜山に対馬釜山事務所を設置した。

対馬釜山事務所

業務としては、①国際交流に関する情報の収集、提供　②国際協力及び国際交流の促進　③韓国内の対馬宣伝事業　④韓国訪問団の連絡調整及び通訳　⑤イベント等の連絡調整及び通訳　⑥釜山～対馬航路利用促進に係る支援　⑦貿易関係事業の調査（対馬特産品の市場調査）⑧その他業務の目的達成に必要な事業などである。

釜山事務所は、ＨＰ開設、メルマガの発信、観光パンフレット・ポスター・ＤＶＤを韓国内エージェントへ配付したり、対馬観光への問い合わせ等に対する総合窓口としている。

所長は観光物産推進本部副本部長が兼務し、現地職員は副所長と主任の二名が常住する。いずれも韓国人である。

釜山事務所設置による韓国人観光客の誘致には、成果が見られているものの、今後貿易などの経済交流に対する支援も必要となってくる。また、現体制（職員二名の雇用）は、観光物産推進本部副本部長が所長を兼務していることから現地での責任者が不在の状態であり、迅速な対応が困難な場合もあり改善の必要性があるとの指摘もある。

国際交流協会の年間予算額：約九〇〇万円（全額市補助金）（二〇〇九年度）

問い合わせ件数：約四七、五〇〇件（二〇一三年）

対馬市の国祭交流都市は、韓国と米国だけであり、現実的な必要性から韓国との交流に力を入れている。

表4　対馬市の国際交流都市

国　家	都　市	締結年度	関　係
アメリカ	グアム島	一九七七年	姉妹島縁組
韓国	影島区	一九八六年	姉妹島縁組
韓国	尉州郡	二〇〇五年	友好協力都市

参照：対馬市のホームページから

(2)　影島区

影島区は、対馬市との交流を経済的な利益を図るよりは行政・文化中心に行い、影島区のイメージアップや対馬市との職員の相互訪問などによる友好関係の維持を目的としている。そのため職員の交流やまつりなどのイベントへの参加などが主な交流形態となっている。

六年間ほど職員の派遣研修が行われたが、現在は職員派遣を行っていない。代わりに影島区は中国と職員の派遣研修を行っている。影島区は生涯学習課に国際協力担当係が設置されていて係長と一名の職員が国際交流業務を担当している。釜山広域市の他の区では国際交流を担当している部署はなく、釜山広域市で担当係長があるのは影島区だけである。影島区は五つの国家の都市と交流をしており、最近、中国との交流にも力を入れている。

表5　影島区の国際交流都市

国家	都市	締結年度	関係
日本	対馬市	一九八六年	姉妹島縁組
中国	上海市黄浦区	一九九六年	姉妹都市縁組
フィリピン	Marikina市	二〇〇八年	友好協力都市
オーストラリア	Manly市	二〇〇九年	友好協力都市
ベトナム	ベッカン県	二〇一一年	友好協力都市

参照：影島区ホームページから

(3)　蔚州郡

蔚州郡は、釜山広域市の東側に隣接する蔚山広域市の管轄下にある基礎自治団体の郡で、広い面積を有する都農複合型自治体である。蔚山広域市には韓国の大手自動車メーカー現代自動車の工場があり、韓国で一番高い個人所得を誇る自治体である。海に面し、山に囲まれた地形のため農業や水産業などの一次産業から先端産業までが栄える産業都市でもある。

対馬市と蔚州郡との交流が始まったのは、朝鮮王朝時代に対馬との外交に生涯を捧げた蔚州郡出身の外交官李藝先生の功績を顕彰するためであった。

二〇〇五年二月一日に対馬市と蔚山広域市蔚州郡との間で『文化交流協力に関する意向書』を交換し、同年一一月一五日、『友好協力了解書』を締結してから年間二回の職員の相互訪問（主に副郡守、副市長、担当公務員、地方議員）

を行っており、相互訪問は主にまつり期間中に招待する形で行っている。交流の目的は経済や文化交流であるが、実際に経済交流はほとんど行われていない。影島区と同様に人的交流とイベントへの参加が主である。国祭交流の業務は総務課の一人の職員が兼務の形で行っており、意欲的に交流事業を展開できるほどの環境ではない。国祭交流予算も職員の交流都市への訪問経費の二、三〇〇〇万ウォン（約二、三〇〇万円）ぐらいで、全体予算五、〇〇〇億ウォンに占める割合はごく僅かすぎない。

中国からは投資誘致や営農関連の見学（梨や欄の栽培技術など）など経済的な目的の訪問や要請があるものの、活発に交流が行われているわけではない。

表6　蔚州郡の国祭交流都市

国家	都市	締結年度	関係
中国	山東省青島市来西市	一九九九年	友好協力都市
中国	山東省文登市	二〇〇一年	友好協力都市
中国	山東省膠州市	二〇〇二年	友好協力都市
中国	遼寧省盤錦市	二〇〇三年	友好協力都市
中国	瀋陽市沈北新区	二〇〇三年	友好協力都市
中国	黒竜江省海林市	二〇〇四年	友好協力都市
日本	対馬市	二〇〇五年	友好協力都市
中国	江蘇省無錫市恵山区	二〇一三年	友好協力都市

参照：蔚州郡ホームページから

李藝（一三七三年～一四四五年）

韓国南東部にある蔚山（ウルサン）出身の朝鮮王朝前期の官人、外交官である。元々は蔚山郡の役人であったが、四代国王、世宗（セジョン）から厚く信頼され、外交官となり、足利将軍との交渉と倭寇対策などに生涯を捧げた。通信使・回礼使などで京都（四回）・対馬・壱岐・九州・琉球へ使行すること四〇数回を数える。彼は倭寇により日本に連れ去られた母国人六六七名を送還した。一四三八年に対馬島主との間で締結した文引制度（日本から朝鮮へ通交するものへ文引・ビザを発行すること）と癸亥約条（一種の貿易条約）などを締結するなど、江戸時代の朝鮮通信使のさきがけとして、中世日朝外交史上注目される人物である。

近年改めて李藝の功績が注目され、韓国政府より二〇〇五年に「文化人物」に、二〇一〇年には「外交人物」に選定された。日本では二〇〇五年に李藝を顕彰する「通信使李芸功績碑」が長崎県対馬市峯町の円通寺に完成した。

5．対馬市と影島区・尉州郡の国際交流を妨げる問題

(1) 仏像盗難事件

二〇一二年一〇月、海神神社の国指定重要文化財「銅造如来立像」や、観音寺の県指定有形文化財「金銅観世音菩薩坐像」などが韓国人窃盗団に盗まれ、韓国内で押収された。ところが韓国仏教界などが「倭寇に略奪されたものだ」

と主張し、韓国・大田地裁がこの主張を認め、返還を差し止める仮処分を出した。この事件で、島民の対韓感情は悪化した。祭りの主催団体は抗議の意を示すため、日韓交流行事「朝鮮通信使行列再現パレード」を中止した上、厳原港まつりのサブタイトルでる「対馬アリラン祭」を削除した。

二〇一四年には引き続き、アリラン祭のサブタイトルは使わなかったが、朝鮮通信使行列再現パレードはわずか一年で復活させた（台風の影響で室内での外交文書交換の形で行われた）。仏像が返還されない状態で「再開すべきでない」との批判も多かったが、行列開催で協力している韓国の団体「釜山文化財団」が韓国政府に仏像返還を働きかけてくれたことに応え、同財団との友好関係を続けるため、再開を決めた。厳原港まつりで仏像盗難事件により中断された朝鮮通信使行列の再現パレードを二〇一四年から復活したのは、韓国からの観光客の減少を懸念した対馬市の立場をよく物語っている。

対馬市から盗まれた仏像

出処：http://mews1.kr/articles/?1851062

(2) 韓国人観光客のマナー問題

韓国人旅行者の急増に、受け入れ態勢の整備が追いつかない対馬市の問題に加えて、韓国と日本との習慣の違いや韓国人旅行者のマナーの悪さが問題視されている。

一部のレストランでは韓国人の出入りを断るなど、韓国人のこれ以上の流入に否定的な住民も多かった。ところが、韓国人の対馬観光が始まった一九九五年以降一五年間、韓国ではマスコミなどでマナーを守るよう呼び

かけたことや対馬の人々は韓国の習慣や文化などを理解するような努力を積み重ね、最近は文化やマナーを巡る摩擦がだいぶ減っている。

(3) 土地買い上げの問題（自衛隊の防衛施設との関連）

韓国からの観光客の急増に伴い、韓国のリゾート業者による島内の土地の買い占め問題が浮上した。二〇〇八年一〇月頃より産経新聞がこの問題を取り上げて韓国の一部の人々の「対馬は韓国の領土である」との主張と結びつけ、こうした土地の買い上げは韓国による実質的な対馬支配をもたらす可能性があると警告したのである。さらに、自衛隊施設の周辺の土地が韓国資本によって購入されるのを国防上の観点から問題視する主張も出され、国会の超党派議員グループが「国境対馬振興特別措置法案」の制定を試みる動きもあった。ところが、日本政府としては土地の購入規制を含む措置に対して慎重な姿勢を表明しており、現状で韓国資本ならびに韓国人個人が持つ土地は、対馬全島の〇・〇三六％に過ぎなく、大きな問題にまでは拡大していない。

6．対馬市との国際交流における影島区と尉州郡の問題

(1) 国際交流に対する住民の認知度の問題

影島区と対馬市との交流の歴史はすでに三〇年を超え、尉州郡との交流も来年で一〇年を迎えているが、両自治体のほとんどの住民は対馬市との交流に関心を寄せるところか交流自体も知らない。このような住民の無関心は両自治体が国際交流を住民が参加する区や郡を挙げての事業ではなく自治体間の職員同士の交流や親睦行事として認識して

いるからである。

(2) 経済協力関係に対する関心の低さ

国際交流を経済の活性化に生かしたいという対馬市とは違って影島区や尉州郡は国際交流を自治体のイメージアップに活用したいというスタンスを持っている。さらに、影島区や尉州郡の担当職員や幹部職員も国際交流の経済的な効果に関してはあまり関心がない。そのため影島区も尉州郡も対馬市との交流にあまり力を入れていないのが現状である。

(3) 職員の国際交流に対する知識や語学能力の問題

対馬市の場合は韓国語が堪能な職員が持続的に韓国との国際交流業務を担当している。一方、影島区や尉州郡には国際交流を担当する職員が二、三年ごとに交代され、専門性や語学の面で国際交流事務を担うには限界があり、国際交流を積極的に推し進められない原因の一つになっている。さらに、国際交流を担当している職員は、総務（尉州郡）や生涯学習（影島区）などの事務を担当していて、国際交流事務は兼務という形になっている。

(4) 交流都市間のネットワーク網の不備

対馬市も影島区や尉州郡も国内外にいくつかの姉妹都市や友好協力都市を持ちながら、いくつかの国内外の都市が複合的な形で関係を結ぶことにより自治体交流の相乗効果を高められる交流のネットワークが形成されていない（こ

れに関しては課題のところで後述する)。

(5) ＮＰＯ団体やボランティア組織の不在

自治体間の国際交流は、自治体の幹部や職員の交流だけでは交流の輪を拡大して自治体に利益をもたらすには限界がある。国際交流に住民の自発的な参加やボランティア活動などは欠かせない存在である。こうした民間のボランティア組織やＮＰＯ団体、自治体が立体的に協力して交流を深めて行くことが求められるが、影島区や尉州郡ではこのような組織や団体が存在しない。対馬市でのイベント参加にしても影島区ではなく釜山広域市のボランティア組織や文化交流ＮＰＯ団体が主役を務めている状況である。

(6) 国際交流の制度化・体系化の欠如

国際交流を担当している専門の職員がいないことや、対馬市と影島区との行政ゼミナール以外の交流行事は定例化・制度化がされていないため、交流の積み重ねによる更なる進展や成果を図ることができない。また、自治体首長の交代により国際交流が影響される問題点も出てくる。つまり国際交流に関心がある首長とそうでない首長によって交流の頻度やコンテンツが異なり、一貫性を欠けた交流になることである。

(7) 国際交流予算の制約

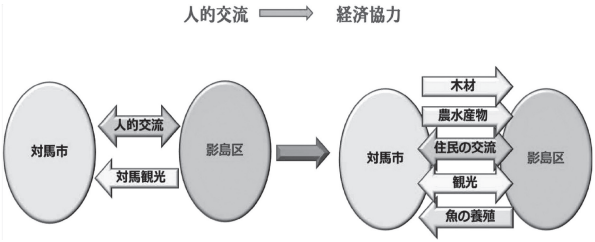
影島区も尉州郡も国際交流予算が限られていて、蔚州郡の場合、自治体職員の訪日経費を賄う程度に過ぎないこと

が分かった。影島区の場合は具体的な数字を明らかにしていないが、事情はあまり変わらないようである。

7．対馬市と影島区、尉州郡との交流の課題

(1) 人的交流から経済交流へ

対馬市と影島区が姉妹都市の縁を結ぶことになったのは、両方とも島であるということであり、尉州郡とは朝鮮王朝時代に対馬との外交に貢献した李藝という尉州郡出身の外交官がいたからである。つまり、対馬市と影島区、対馬市と尉州郡との交流は最初から経済的なメリットを念頭に置いた交流ではなかった。そのために影島区と尉州郡は、対馬との交流を経済的なメリットという側面よりは人的交流に重点を置いて行っている。ところが、人的交流、特に職員中心の国際交流は、交流の内容や規模を拡大、深化させていく上では限界がある。自治体間の交流をより深く、広く発展させるためには自治体や住民に利益をもたらす実利的な交流が求められる。そのためには、各分野で収益につながる経済面での協力が不可欠である。影島区や尉州郡は対馬市との経済交流に消極的である。というのは対馬市との交流で実質的な利益が得られる分野はないと考えているからである。しかし、農業や水産業中心の対馬市と都会化した影島区との間、また同じく農業や水産業、先端産業が混在する尉州郡との間には必ずウィンウィンできる協力分野があると思われる。人的交流においても職員だけの交流ではなく、できるだけ多くの住民、とりわけ企業家や商工

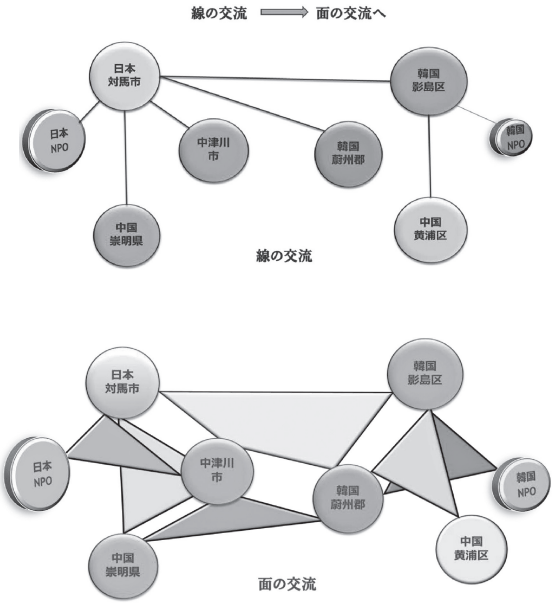


業人、貿易などを目指している若者などが参加できるシンポジウムやゼミナールを開催して民間レベルで商売になる分野や品目を探し出す場を提供することが必要であろう。さらに、影島区が影島区だけでなく釜山圏域の自治体と対馬市との経済協力ができるように仲介役を担うこともできると思われる。つまり対馬市と韓国の自治体の経済協力の窓口としての役割を担うことである。

影島区や尉州郡には人的交流に留まることなく、相互に利害関係が絡み合う経済交流へとアップグレードさせるための体制作りが必要であり、そのためには影島区や尉州郡の国際交流に対する認識の転換が求められている。

(2) 線の交流から面の交流へ

対馬市、影島区、尉州郡の交流は、線の形での交流を行っている。つまり、対馬市―影島区、対馬市―尉州郡、対馬市―中津川市（国内）、影島区―長興郡といった形の交流である。これを面の交流へと拡大していく必要がある。つまり、対馬市―影島区―尉州郡、対馬市―中津川市―影島区―尉州郡といった三角や四角の形で中層的に絡み合う自治体ネットワークを構築することである。国内の姉妹都市や海外の姉妹都市を繋げる形で姉妹都市ネットワークを

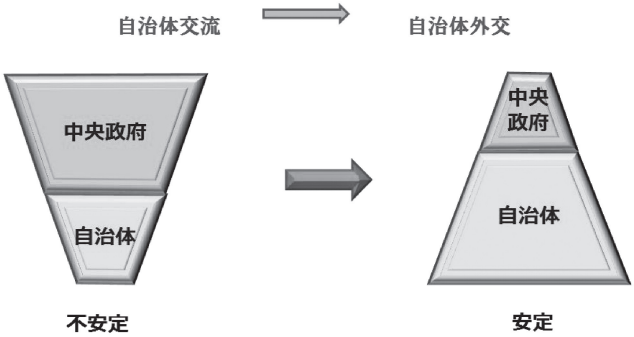


拡大していけば自治体間での協力し合う分野も多様化され、規模も大きくなり、交流の相乗効果が得られると思う。また、日韓だけではなく中国など近隣諸国にある交流都市や民間団体も加えればその効果はさらに増すだろう。そのためには日韓の各自治体が他国や他の自治体にアピールできるコンテンツの開発や発掘に力を入れる必要である。

(3) 自治体交流から自治体外交へ

自治体の交流は、中央政府間の対立や葛藤を緩和する緩衝地帯としての役割をも求められる。今回の調査で、影島区や尉州郡との交流に歴史問題や領土問題による日韓関係の悪化が影響を与えているかとの質問に対して、対馬市は、「影響を受けていない」、むしろ中央政府間の対立より仏像盗難事件のような住民と身近な問題が影響を与えていると答えた。影島区と尉州郡は同じ質問に対して「直接的な影響を受けているわけではないが、心理的に自粛モードになった」と答えた。政府間の関係が現在のような膠着状態に陥っている場合、自治体間の交流は形式にとらわれることなく様々な形の交流を活発化させ、関係悪化を解きほぐすきっかけを作ることが必要であり、これが自治体外交である。

当初、日韓両国政府の主導で推し進められた朝鮮通信使の記憶遺産共同登録が日韓の関係悪化により頓挫したことを受け、両国の自治体や民間団体などが中心



になって推進しているのは自治体外交のよい例である。

日韓関係が中央政府の意思により独占されることなく、自治体が各方面から自主的に国家間の葛藤を牽制するシステムを構築していくことが大事である。

今後の課題

今回の対馬市、影島区、蔚州郡での現地調査では国際交流に対する対馬市の積極的な姿勢に比べて影島区や蔚州郡は消極的で、受身的であることが分かった。その主な原因は両自治体が対馬市との交流を通じて経済的なメリットを得られないということであったが、それだけではなく地方公務員の対外認識、受身的な仕事のやり方、住民や自治体首長の国際交流に対する認識など、もっと複合的な原因があるのではないかという疑問が残る。今回の調査では時間的な制約もあって主に担当職員との面談に頼り、住民や自治体長との面談ができなかったため、こうしたことを解明できる立体的な調査には至らなかった。そのうえ、影島区を訪れた時はあいにく人事異動で国際交流の担当者が変わり、具体的な事情聴取にも限界があった。これからは調査対象や範囲を広め、住民や自治体首長、商工業者、農業や漁業従事者らとの面談を通じて多面的な調査研究を行いたい。

参考文献

（1） 정용하「한일지자체의로컬거버넌스비교」21세기정치학회『21세기정치학회보』22집3호、２０１２년

（2） 장제국「釜山―福岡초광역 경제권 형성과 한일협력」『지역사회』통권 제63호、２０１０년

（3）　부경대학교 대마도 연구센터『부산과 대마도의 ２０００년』국학자료원、２０１０년
（4）　황백현『대마도 統治史』발해、２０１２년
（5）　鶴田　啓『対馬から見た日朝関係』山川出版社、二〇〇六年
（6）　対馬観光物産協会『つしま百科』昭和堂、二〇一一年

参考資料

（1）　対馬国際交流協会編『対馬釜山事務所一〇年活動報告書二〇〇三―二〇一三』、二〇一三年
（2）　社団法人釜山韓日文化交流協会『社団法人韓日文化交流協会20年史』二〇〇七年
（3）　日本経済新聞二〇一四年四月二九日
（4）　京都新聞二〇一四年五月二二日
（5）　山口新聞二〇一四年八月二六日
（6）　西日本新聞　二〇一四年一〇月二二日
（7）　http://mitsui.mgsi.com/terashima/nouriki1404.php
（8）　http://www.jrbeetle.co.jp/internet/tushima /index.html
（9）　http://rigei.pro/story.html
（10）　http://neus1.kr/articles/?1851062